



第1回避難訓練から ~普段できる三つの訓練~

18日に、火災を想定した避難訓練を行いました。大きなねらいは「避難経路の確認」です。1年生をはじめ全校生が、安全に、速やかに校庭に避難することができました。校長講話で、次の話をしました。

自分の命を守るためには、訓練の時だけでなく日頃から訓練しておくことが大切です。災害の多い日本では、「自助」・「共助」・「公助」の三つが大切とされていますが、小学生の皆さんには、自分の命は自分で守る「自助」を一生懸命にやってほしいと思います。

そこで、普段の学校生活で次の「三つの訓練」をしましょう。

一つ目は、「**人の話をしっかり聞く**」ことです。しっかり聞く習慣が身に付いていないと、いざというときに、大事な情報や指示を聞き漏らしてしまい、安全に避難できないことがあります。

二つ目は、「**自分の考えをもつ**」ということです。授業中に「私はこう思う」「私はこうする」など、よく考えて、よりよく判断する力をつけていくことが大切です。そうすれば、自分の命を守るための適切な行動をとることができるようになります。

三つめは、「**元気な声であいさつすること**」です。毎日元気な声を出してあいさつする習慣が身に付いている人は、いざという時に大きな声を出して助けを求めることができます。

この三つができる人は、いざという時に自分の命を守る力を高めることができます。



温かくて優しい手



先週の朝、1年生の手を握り締めて横断歩道を渡る6年生の姿がありました。6年生の温かくて優しい手に触れて、1年生はどんなに嬉しかったことでしょう。入学式の式辞で、「6年生には、1年生のハピネスクリエーターになってほしい」と話しましたが、このいい風景を見て、大変嬉しく思いました。

街に響く元気な声



生活委員のあいさつ運動の音が素晴らしく、中央公民館の辺りまで響き渡っています。その元気のよさに、見守り隊の方々などが、びっくりされています。元気な声で街の方々に活気を与えています。

この子どもたちは、いざという時に、大声を出して助けを求めることができますね！

いいぞ、生活委員会！！